

**令和 5 年度
八広はなみずき高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画**

第 8 期最終目標

～目指すべき将来像～ 「世代を超えて優しいまち」

高齢者が地域で孤立せず役割と生きがいを持ち、一人ひとりが主体性をもって様々な活動に参画し、世代を超えてお互いに「支え」「支えられ」「つながる」ことができる地域を目指す。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する 後期高齢者人口
25,588 人	6,386 人	25.0%	3,559 人	55.7%

5 年度の到達点

- 1 地域で高齢者を支える様々な活動の担い手が増加し、活動への協力が、担い手自身の生きがいとなる。
- 2 高齢者が楽しみながら介護予防・認知症予防活動に取り組み、転倒リスクの低減や認知症予防につながる。また、総合事業のケアプランに地域での取組や活動が反映され、自立支援の促進を図る。
- 3 多職種連携の会や事例検討会等での関わりにより、高齢者支援総合センター（以下「センター」という）と地域の介護サービス事業所や医療機関等との連携が深まり、専門職を講師とした講座の開催を通して地域住民が必要としている介護・医療の情報が把握しやすくなる。
- 4 地域住民が運動や栄養、口腔ケアの重要性を理解する機会が増え、フレイル予防につながる。また、地域住民が認知症や精神疾患を理解することで、認知症や精神疾患があっても、地域で継続して生活を送ることができるよう働きかける。
- 5 関係機関との連携により、墨田区の住宅改修助成事業や耐震化事業、福祉用具について地域住民が理解し、制度の利用から安心して在宅生活を送ることができるようになる。

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

5 年度の 取組の視点	高齢者、家族、地域住民、関係機関からの様々な相談に対し、訪問、電話、面接等によりセンター・高齢者みまもり相談室（以下「相談室」という）で一体的に対応し、関係機関との連携により必要なサービスや制度につなぐ。	
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

2 権利擁護

5年度の 取組の視点	<p>関係機関との連携により地域住民が安心して権利擁護や虐待に関する相談ができるよう対応する。</p> <p>○虐待防止ネットワークの構築のため、専門職向けの弁護士相談会を年2回開催する。</p> <p>○地域住民向けの権利擁護に関する講座を年1回開催する。</p>	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 ○件 （前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

5年度の 取組の視点	<p>○主任介護支援専門員の集いを年4回以上開催し、定期的な情報交換や介護支援専門員向け研修の企画・開催を支援する。</p> <p>○介護支援専門員のニーズや地域課題に基づく事例検討会を年2回開催する。</p> <p>○関係機関との連携やネットワーク構築支援として、地域のケアマネジャーや医療関係者間を中心に定期的に勉強会などを開催する。</p>	
結果	ケアマネジャー向け研修 回（前年度 回）	事例検討会 件（前年度 件）
次年度以降の 取組の方向性		

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

5年度の 取組の視点	<p>○総合事業のケアプランに地域での取組や活動が反映され自立支援の促進につながる。</p> <p>○多職種との連携により自立支援を促すケアプランの検討を行いケアマネジメントの質の向上を図る。</p>	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

5 認知症支援

5年度の 取組の視点	<p>○認知症の方が、尊厳と希望を持って住み慣れた地域で自分らしく暮らすことが出来るよう、関係機関との連携、地域の理解と協力のもと、当事者や家族の視点を重視した支援体制の強化を図る。</p> <p>○認知症家族会の開催（年 6 回）</p> <p>○認知症サポーター養成講座の開催（年 10 回）</p> <p>○オレンジカフェの開催支援（年 12 回 オンラインを含む）</p> <p>○あらゆる機会を通じてオレンジカフェ、家族会の周知を行い、認知症当事者や家族等に参加を促す。</p> <p>○認知症初期集中チームについて、関係機関、地域住民へ周知を行い、認知症の早期発見・対応に繋げることができるよう、必要な方に認知症初期集中支援アセスメント訪問を実施する。</p>	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 6回（前年度 6回）
次年度以降の 取組の方向性		

6 地域ケア会議

5年度の 取組の視点	<p>○多職種と連携し、自立支援・重度化防止等に資する観点から、地域ケア個別会議を年 5 回開催し、個別課題や地域課題を把握する。</p> <p>○個別ケースの検討を積み重ねていき、共通する地域課題から不足している社会資源を検討する地域ケア推進会議を年 1 回開催する。</p>	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

7 生活支援体制整備事業

5年度の 取組の視点	<p>○センター、相談室が収集した地域の情報をリアルタイムに共有できるように「まちの情報シート」を作成し、八広・東墨田地域の交流・通いの場を継続して把握する。</p> <p>○地域ケア会議で課題に挙がった地域の介護予防（自主グループ）情報を見える化し、地域の高齢者のニーズを把握する。</p> <p>○センター、相談室全体で地域課題を共有し、ニーズに応じて地域住民との協働による新たな集いの場の立ち上げを支援する。</p>	
結果	交流・通いの場 ○件（前年度 ○件）	
次年度以降の 取組の方向性		

8 見守りネットワーク事業

5年度の 取組の視点	○高齢者名簿等から対象を抽出しアウトリーチ（高齢者宅への訪問支援）を600件行う。 ○安否確認の必要がある場合は、関係機関と連携し、早期の対応を行う。 ○アウトリーチでは本人の状況だけではなく地域の活動状況や、地域活動のキーパーソンの発掘等を意識した聞き取りを行う。 ○地域との関係性が密である個人商店等を中心に、「みまもりだより」配布先の新規開拓を行う。	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実 | 2… 介護予防の推進 |
| 3… 介護サービスの充実 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 | |

事業名 八広はなみずき応援団の育成		施策の方向性：1
背景となる課題	地域で高齢者を支える担い手が少ない。	
事業内容	○みまもりだよりでの周知や関係機関からの情報収集により、地域活動の担い手を募集する。 ○募集した担い手に、地域で行われている様々な活動の説明を行い、参加できる活動に結び付ける。 ○活動の参加者からの希望に応じて育成に必要な研修等を行う。	
4年度事業実績 （アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム） R5.1.31 日段階	○園芸活動、脳トレ教室の担い手や地域住民・専門職向け講座の講師など、地域住民の応援団が新たに4名、専門職の応援団が6名増加し、応援団が合計31名となった。 ○地域住民の応援団として、園芸活動への協力や、マジックの会、脳トレ折り紙教室、体操教室の講師等の活動を継続することにより、応援団自身の生きがい作りにつなげることができた。 ○介護・医療の専門職の応援団には、認知症やフレイル予防の講座、高校生向けの福祉講座等の講師を依頼し、専門職を講師とした講座の開催を通して地域住民が必要としている介護・医療の情報が把握しやすくなった。	

5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	○人材：センター2名、相談室職員2名、地域住民、介護・医療等の専門職 ○実施場所：センター ○必要な物品：応援団証の作製・配布
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目標)	○みまもりだよりや多職種連携研修会等での広報により、地域住民・専門職の応援団を新規で募集する。 ○応援団を継続している方には、八広はなみずきの活動内容についても意見を求めていく。 ○応援団証を作成し、配布することで地域住民や専門職が役割を持ち、活動への協力が生きがいにつながるようサポートをする。
	成果(アウ トカム)を 測る指標 及び目標	○地域住民の応援団の数、専門職の応援団の数(新規、継続加入者、活動者数を把握) ○応援団への聞き取りやアンケートの実施による評価
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(アウ トカム目標 の達成状 況)	

事業名 いきいき活動プロジェクト		施策の方向性：1, 2
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査によると、転倒リスク、閉じこもりリスクの高い高齢者が多い。 ○男性の集いの場が少ない。 ○地域住民が見守り・配食、買い物など、多様な日常生活の情報を把握する機会が少ない。 ○認知症の予防活動が少ない。 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○実態把握訪問や関係者からの情報収集により把握した閉じこもりリスクのある高齢者に対して、園芸活動や趣味活動等を通じた自主活動への参加を支援する(園芸活動 年12回)。 ○自主グループの継続及び新規立ち上げを支援し、地域住民に自主グループの活動内容を周知する。 ○自主グループ連絡会を年1回開催する。 ○地域住民やリハビリテーション専門職等と連携し、介護予防、認知症予防活動を年12回開催する。 ○地域の多様な日常生活に関する情報を生活支援マップ等により可視化できるよう取り組む。 	

<p>4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31 日段階</p>	<p>○車いす街歩きイベントの開催： 2回 36名参加 ○体力測定会開催数：6回 72名参加 ○自主化したグループ数：2グループ ○グループの活動内容：運動系17グループ、趣味系1グループ、脳トレ系4グループ（地域リハビリテーション連携事業含） ○自主グループ連絡会：1回 15名参加 ○地域リハビリテーション推進事業：「いきいき活動プロジェクト(脳トレ)」10回開催 延136名参加 ○趣味サークル「あむとも」:手芸の好きな方が集まり自由に作品を作る会 18回開催 延157名参加 【2023年1月に新たに立ち上がった会】 ・マジックの会（介護予防、認知症予防、脳トレ）:2回開催 13名参加 ・リフレッシュ体操（介護予防）:1回開催 6名参加 ・多世代交流イベント:墨田区社会福祉協議会地域福祉プラットフォームと八広はなみずきの共催で、「タオルでかんたん うさぎのぬいぐるみづくり」:1回開催 高齢者10名、母子2組4名参加、八広はなみずき児童館の児童を対象に、うさぎのぬいぐるみづくりを実施 4回開催 29名参加 ・「ふれあいガーデニング」園芸活動 10回開催 79名参加（日々の水やりなどの活動を含めると延200名以上参加） ・「脳トレ折り紙広場」7回開催 119名参加</p>				
<p>5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="188 1106 336 1541"> <p>投入資源 (人・場所 等必要な資 源)</p> </td> <td data-bbox="336 1106 1457 1541"> <p>○人材：センター職員3名、地域住民、墨田区介護予防サポーター、地域リハビリテーション推進事業のメンバー、東京都作業療法士会 ○ネットワーク：東京都作業療法士会、介護サービス事業所、墨田区社会福祉協議会地域福祉プラットフォーム、すみだボランティアセンター、墨田区環境保全課、小学校・中学校、児童館、図書館、介護予防サポーター ○場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター、地域の交流スペース等 ○必要な備品：体力測定に必要な物品（握力計、ストップウォッチ、ビニールテープ、電池）園芸活動に必要な肥料、土など、脳トレで使用する折り紙、マジックで使用する物品、生活支援マップ印刷費</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 1541 336 1968"> <p>5年度活 動計画 (アウトプ ットの目標)</p> </td> <td data-bbox="336 1541 1457 1968"> <p>○コロナ禍で活動休止のままになっている自主グループの現状を把握し、意向確認をしながら再開に向けた話し合いを行う。 ○既存の自主グループ内で、参加者の減少や場所の確保、利用料、役員の交代など運営上の課題を抱えているグループに対して、適宜、解決に向けた話し合いを実施し、側面的な支援を行う。 ○各自主グループの参加者に対して体力測定を実施し、運動の継続が体力維持・向上につながることを実感してもらい、モチベーションを高められるように働きかける。 ○参加者のニーズを把握した上で趣味活動を含めた様々な種類の自主グループを創出し、男性が参加しやすい通いの場を増やす。 ○元気な方向けの体力向上プログラム「リフレッシュ体操」を定期的実施し、介護予防ボランティア</p> </td> </tr> </table>	<p>投入資源 (人・場所 等必要な資 源)</p>	<p>○人材：センター職員3名、地域住民、墨田区介護予防サポーター、地域リハビリテーション推進事業のメンバー、東京都作業療法士会 ○ネットワーク：東京都作業療法士会、介護サービス事業所、墨田区社会福祉協議会地域福祉プラットフォーム、すみだボランティアセンター、墨田区環境保全課、小学校・中学校、児童館、図書館、介護予防サポーター ○場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター、地域の交流スペース等 ○必要な備品：体力測定に必要な物品（握力計、ストップウォッチ、ビニールテープ、電池）園芸活動に必要な肥料、土など、脳トレで使用する折り紙、マジックで使用する物品、生活支援マップ印刷費</p>	<p>5年度活 動計画 (アウトプ ットの目標)</p>	<p>○コロナ禍で活動休止のままになっている自主グループの現状を把握し、意向確認をしながら再開に向けた話し合いを行う。 ○既存の自主グループ内で、参加者の減少や場所の確保、利用料、役員の交代など運営上の課題を抱えているグループに対して、適宜、解決に向けた話し合いを実施し、側面的な支援を行う。 ○各自主グループの参加者に対して体力測定を実施し、運動の継続が体力維持・向上につながることを実感してもらい、モチベーションを高められるように働きかける。 ○参加者のニーズを把握した上で趣味活動を含めた様々な種類の自主グループを創出し、男性が参加しやすい通いの場を増やす。 ○元気な方向けの体力向上プログラム「リフレッシュ体操」を定期的実施し、介護予防ボランティア</p>
<p>投入資源 (人・場所 等必要な資 源)</p>	<p>○人材：センター職員3名、地域住民、墨田区介護予防サポーター、地域リハビリテーション推進事業のメンバー、東京都作業療法士会 ○ネットワーク：東京都作業療法士会、介護サービス事業所、墨田区社会福祉協議会地域福祉プラットフォーム、すみだボランティアセンター、墨田区環境保全課、小学校・中学校、児童館、図書館、介護予防サポーター ○場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター、地域の交流スペース等 ○必要な備品：体力測定に必要な物品（握力計、ストップウォッチ、ビニールテープ、電池）園芸活動に必要な肥料、土など、脳トレで使用する折り紙、マジックで使用する物品、生活支援マップ印刷費</p>				
<p>5年度活 動計画 (アウトプ ットの目標)</p>	<p>○コロナ禍で活動休止のままになっている自主グループの現状を把握し、意向確認をしながら再開に向けた話し合いを行う。 ○既存の自主グループ内で、参加者の減少や場所の確保、利用料、役員の交代など運営上の課題を抱えているグループに対して、適宜、解決に向けた話し合いを実施し、側面的な支援を行う。 ○各自主グループの参加者に対して体力測定を実施し、運動の継続が体力維持・向上につながることを実感してもらい、モチベーションを高められるように働きかける。 ○参加者のニーズを把握した上で趣味活動を含めた様々な種類の自主グループを創出し、男性が参加しやすい通いの場を増やす。 ○元気な方向けの体力向上プログラム「リフレッシュ体操」を定期的実施し、介護予防ボランティア</p>				

		<p>の担い手を養成する。</p> <p>○総合事業のケアプランに地域での取り組みや活動が反映され、自立支援の促進につなげる。</p> <p>○八広はなみずきの自主グループ情報を地域住民に周知するため、高齢者が集まる病院やクリニック、薬局、美容院、マッサージ店、整体等に、自主グループ情報を掲載したファイルを作成し、配布する。</p> <p>○墨田区社会福祉協議会地域福祉プラットフォームとの共催イベント（地域の高齢者が講師となる手芸やゲーム等）を定期的実施し、多世代交流の機会を増やす。</p> <p>○高齢者向けスマホ教室の周知を行い、オンラインでも地域とつながれることを実感してもらう。</p>
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<p>○既存の自主グループ数、体力測定会の開催数、新たに自主化したグループ数、グループの活動内容、自主グループ連絡会の実施内容、八広はなみずきと地域住民の協働事業参加者数</p> <p>○男性の活動参加人数を把握する。</p> <p>○自主グループ参加者の体力測定結果の変化を確認する。</p> <p>○自主グループにより心身の状況が改善した事例を報告する。</p> <p>○自主グループ参加者やサポーター、ボランティアの方にアンケートを実施し、生き甲斐や役割をもつことによって健康観が変化したなどの効果を確認する。</p>
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	

事業名 八広はなみずき多職種連携の会		施策の方向性：3
背景となる課題	八広はなみずきカフェで介護サービス事業との顔の見える関係が築けてきたため、さらなる関係性の構築に向けて、多職種の参加を推進する必要がある。	
事業内容	<p>○「多職種連携の会」を年2回以上開催し、介護サービス事業所や医療機関等との顔の見える関係性を構築する。</p> <p>○ケアマネジャー向け研修会の開催や、事例検討会（年2回）の企画・開催を支援する。</p> <p>○「多職種連携の会」の参加者が講師となり、地域住民向けの研修会を年1回開催する。</p>	
4年度事業実績（アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<p>○八広はなみずき多職種連携の会を2回実施し、医療、介護の専門職が73名参加した。地域の介護支援専門員や医療職等が参加し、多職種間のネットワークを構築した。また多職種間における意見交換や情報交換を行ったことで、医療と介護の連携強化に繋がった。</p> <p>○認知症疾患医療センターや東京都リハビリテーション病院との共同事業として、実際にあった相談や入退院支援の事例を通し、事例検討会を行った。医療や介護の多職種の視点や支援方法等を学ぶことにより、ケアマネジャーのケアマネジメント力向上に繋がった。</p>	

		○八広はなみずき多職種連携の会の専門職が講師となり、医療や介護の講座を通して地域住民が必要としている介護・医療の情報が把握しやすくなった。2 月には地域住民向けに出張講座の開催を働きかけている。
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	○人材：センター職員 4 名、高齢者みまもり相談員 1 名 ○参加者：介護支援専門員、病院関係者、訪問診療医、リハビリ職、介護保険サービス事業所職員、地域住民など ○場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター内もしくはオンライン開催
	5 年度活 動 計 画 (アウトプ ットの目標)	○MSW の会や認知症疾患医療センターとの共催により、医療と介護の連携を目的とした事例検討会を年 2 回開催する。 ○令和 4 年度のアンケート結果によるニーズを踏まえ、研修会や情報交換会等を適宜開催する。
	成果(アウ トカム)を 測る指標 及び目標	○参加者にアンケートを実施し、多職種連携の会に参加したことにより、センターや医療、介護関係者間との連携や理解が深まったかを把握する。 ○多職種連携の会の専門職が講師となった、医療・介護に関する講座の開催数と、講座参加者へのアンケート等により地域住民が必要としている、医療や介護関連の情報等を把握する。
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(アウ トカム目標 の達成状 況)	

事業名 地域医療健康活動		施策の方向性：4
背景となる課題	○運動や栄養、口腔ケアの重要性を地域住民が知る機会が少ない。 ○地域住民が病院や訪問診療等、医療に関する情報を得られる場が少ない。 ○認知症等の精神的な疾患のある方を地域で支えるためには、地域住民の理解が必要である。 ○認知症高齢者の増加により、地域住民が認知症疾患医療センターの機能や役割を理解する場が必要である。	
事業内容	○医療機関との協働により、フレイル予防や口腔ケア、医療に関する情報を伝える講座の開催を企画する(地域医療健康講座 年 1 回、口腔ケア講座 年 1 回) ○認知症疾患医療センター、精神保健福祉センターとの連携・協働により、認知症等に関する講座を企画・開催する(年 1 回)。 ○各講座については、チラシやみまもりだより等の広報紙を通じて地域住民へ周知する。	
4 年度事業実績 (アウトプット及び	○認知症を知る会を 1 回開催し、認知症疾患医療センター相談員との協働により、22 名の方が参加した。認知症の症状の説明や当事者、介護者への支援方法、認知症疾患医療センターの	

現時点で判明しているアウトカム) R5.1.31 日段階		<p>予約から受診方法等について地域住民が理解し、質疑応答も活発に行われ、認知症に関する関心の高さを認識した。</p> <p>○東京都立精神保健福祉センターの精神科医師との協働により、精神疾患を知る会を 1 回開催し、14 名の方が参加した。参加者からは、統合失調症や発達障害、パニック障害等への関心の声もあり、講座後 30 分ほど個別に 5 名の相談も続き、継続した学びや相談の機会の必要性を把握した。</p> <p>○済生会向島病院の医師、理学療法士、管理栄養士、医療相談員他との協働により地域医療健康講座を 3 回開催し、71 名と多くの地域住民が参加した。参加者へのアンケートの実施や聞き取り等により、相談しづらい排尿についての話しを聞いて参考になった、運動や栄養、口腔ケア等の重要性を理解できた、フレイル予防に繋がる内容だった等の多くの意見が挙がった。</p>
5 年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<p>○人材：センター職員 3 名、相談室職員 2 名</p> <p>○ネットワーク：医療関係者、認知症疾患医療センター相談員、東京都立精神保健福祉センター職員、介護保険サービス事業所職員他</p> <p>○実施場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター</p>
	5 年度活動計画 (アウトプットの目標)	<p>○済生会向島病院等との連携・協働により、フレイル予防等に関する地域医療健康講座を 1 回開催する。</p> <p>○認知症疾患医療センター、精神保健福祉センターとの連携・協働により、認知症、精神疾患等に関する講座を 1 回開催する。</p>
	成果(アウトカム)を測る指標及び目標	<p>○地域医療健康座等の開催数(年 1 回)、参加者数、講座や自主グループ参加者等へのアンケートからフレイル予防につながった人数を把握する。</p> <p>○認知症を知る会、精神疾患を知る会の開催数(各年 1 回)、参加者数、アンケート実施者から、認知症や精神疾患に対する理解が深まった人数を確認する。</p>
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果(アウトカム目標)の達成状況)	

事業名 住まいる講座		施策の方向性：5
背景となる課題	令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査によると、玄関周りや居室、廊下、階段等などの段差に困っている人が多い。	
事業内容	ニーズ調査の結果から、住まいに関する関係機関と連携し、墨田区の住宅改修助成事業や耐震、福祉用具に関する講座を開催する(住まいる講座 年 2 回、耐震化についての講座 年 1 回)	

4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31 日段階		<p>○住まいる講座を1回開催し、10名の方が参加した。福祉用具事業者との連携により、介護用ベッドや手すり等の福祉用具を用いた体験型の講座内容とした。参加者から、「福祉用具を直接見たり触ったり出来て、大変参考になった」との意見が挙がり、福祉用具に関する理解を深める機会となった。2回目は2月後半に開催予定</p> <p>○耐震化についての講座を1回開催し、10名の方が参加した。墨田区耐震化推進協議会、墨田区防災まちづくり課の計7名の職員が参加した。講義後に相談窓口を設置し、高齢者が直接住まいの相談窓口職員に、直接相談する機会となった。後日、改めて講座参加者のご家族より相談が入り、防災まちづくり課へつないだケースもあった。</p>
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な 資源)	<p>○人材：センター職員1名、相談室職員1名、墨田区耐震化推進協議会職員、墨田区防災まちづくり課職員、福祉用具事業所職員</p> <p>○場所：八広はなみずき高齢者支援総合センター</p>
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目 標)	○住まいる講座開催数(年2回)、耐震化についての講座開催数(年1回)
	成果(アウ トカム)を 測る指 標及び目 標	<p>○住まいる講座、耐震化講座の開催数、参加者数</p> <p>○各講座にて参加者にアンケートを行い、住宅改修助成事業、福祉用具、耐震化事業を理解したか把握する。</p> <p>○住宅改修助成事業や福祉用具をレンタルしている利用者にアンケートを実施し、住環境の改善により、安全に室内の移動が行えるようになったかを確認する。</p>
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(アウ トカム目 標の達成 状況)	